広島民報

2021年 4月25日 第2598号
月3回刊
日曜日発行

発行所　広島民報社
〒730-0013 広島市中区八丁堀8-11／電話 (082) 228-4046
（昭和41年2月19日第三種郵便物認可）
1ヵ月 240円(送料126円)／1部 80円
郵便振替 01330-2-34778

© 広島民報社　2021年

参院広島再選挙25日投開票
野党統一の宮口氏必勝へ
金権自民にノーの審判を

25日投開票の参院広島再選挙は、日本共産党が支援し、立憲民主、国民民主、社民各党が推薦する野党統一候補の宮口はるこ氏＝諸派新＝と、自民党公認で公明党推薦の西田英範氏＝新＝の事実上の一騎打ちです。選挙戦は大激戦のまま最終盤に突入。金権腐敗や新型コロナが争点として浮かび上がり、宮口氏が県内3市民連合と結んだ政策協定に、党派を超えた有権者の共感が広がっています。

立憲民主党の枝野幸男代表の応援を受けて訴える宮口氏（左）＝11日、広島市

「女性を国会へ」とアピールする日本共産党の大西オサム衆院1区候補（左）ら＝15日、広島市

最大の争点は金権腐敗選挙の払拭

再選挙は、河井克行・案里夫妻による大規模買収事件を受けた「政治とカネ」が最大の争点です。宮口氏は政策協定で「大規模買収事件の全容解明を通して金権腐敗選挙を払しょくする」と約束。日本共産党広島県委員会は「金権自民党NO！女性を国会へ」と書いたプラスターや横断幕などを掲げ、県内各地の街頭でアピール。有権者から「自民はもうダメ。頑張れ」との激励が続き、「金権腐敗を広島から一掃しよう」との「広島民報」号外ビラの受け取りも好調です。

コロナ対策で宮口氏弱者の声を届けたい

新型コロナウイルスの感染症対策をめぐり、宮口氏は政策協定で「医療・公衆衛生体制の抜本的な見直しと拡充を行い、社会経済活動の自粛や休業に対する補償について十分な予算措置を講じることを求める」と約束。第一声では「新型コロナウイルスを前に、お金持ちも、生活が苦しい人も、若い人も高齢者も、みんなが弱者になってしまった。弱い所にしっかり光を当て、小さな声を政治に届けたい」と訴えました。

一方、元経済産業省官僚の西田氏は「コロナ後の攻めの経済をつくっていく」と国民の苦しみには目を向けず、もっぱら経済のことばかりです。

共産党県委は23万対話へ全力

日本共産党広島県委員会は「総選挙躍進、1千万人対話・党勢拡大特別期間」として総選挙の比例代表で15％以上の得票実現をめざし、25日の投票日までに「宮口」支持での対話目標を23万、「日本共産党」への支持拡大目標を10万と設定。各地の党支部と後援会が臨時電話も使って対話を広げています。

河井疑惑ただす署名送付
自民は1.5億円全容解明を
再選挙の資格があるのか

2019年参院選の広島選挙区で初当選した河井案里被告と夫の克行被告に1億5千万円を提供した自民党本部に対して、市民団体「河井疑惑をただす会」は2日、全容解明を求める署名3918人分を送りました。

署名は、1億5千万円が買収の原資になったとして、菅義偉総裁（首相）、安倍晋三前総裁、二階俊博幹事長に1億5千万円を提供した理由や使い道を「公党として説明する責任がある」と訴えています。自民党は参院広島再選挙（25日投票）に候補者を立てる資格があるのでしょうか。

第92回メーデー
広島県内は4カ所で開催

5月1日(土)に開催される第92回メーデーの広島県内の催しは以下の通りです。連絡先＝県労連082（262）1550

◆県中央メーデー
10時～、デモ行進＝広島市の京口門公園と平和記念公園噴水前の2カ所をスタート。10時40分～、ハノーバー庭園＝文化行事、11時～12時、集会。

◆福山地区統一メーデー
18時20分～19時、福山市福山城公園（福山文学館隣）。無料駐車場を準備しています。

◆呉地区メーデー
14時～15時15分、呉市堺川野外音楽堂（中央公園4ブロック）。あいさつ、お楽しみ抽選会、メーデー宣言。

◆尾道・三原地域メーデー集会
14時～15時、JR尾道駅前・緑地広場。各団体のリレートーク。

衆院中国ブロック連載
大平よしのぶ物語②
野球に明け暮れた青春時代

大平さんが子どもの頃、熱中したのはソフトボールです。地元の子ども会にチームがあり、4歳上のお兄さんに連れられ小学校に上がる前からプレーしていました。

「地域に世話役のおじさんがいて熱心に指導していました。子どもの数も多くて、地区や市全体で大会も開いていました」と振り返ります。

ソフトボールだけでなく、チームで夏休みにプールやキャンプに行ったり年末にもちつきをしたり。とても楽しい時間でした。

中学、高校でも野球部に。左投げ・左打ちだったので、ポジションは外野手か一塁手でした。舟入高校では主将も務めました。

新チームのデビュー戦はぼろ負けでした。

「楽しければいい」という雰囲気もあった中、大平さんはチームの仲間に「楽しく野球をやるってどういうことなんじゃろう」と話し合いを呼び掛けました。

「話し合いの結果、『全力でプレーし、何より試合に勝ってこそ楽しい』という方向にチームがまとまりました」。それから練習に打ち込む姿勢に真剣さ、厳しさが出てきたといいます。最後の夏の県大会では2勝し、3回戦まで進むことができました。

大平さんは「野球部の3年間は最高の青春でした」と目を輝かせます。

地下水

東京渋谷区のバス停で昨年11月、路上生活をしていた女性が男性に殴られて亡くなった事件が、今も心から離れません◆被害者の大林三佐子さん（64）が広島出身で同時代を生きた人だというのもありますが、それ以上に彼女が、路上生活をするようになってからも派遣会社に登録するなど、誰にも頼らず1人で生き抜こうとしていたことが、報道からひしひしと伝わってきたからです◆12月に都内であったこの暴力に抗議するデモのなかに「彼女は私だ」と書かれたプラカードを見たという5歳下のある女性作家は「生活保護を申請してほしかった」としつつ、「だが私たちの世代で1人で生きてきた者には『自助』の意識がしみついている」と語っていました◆菅義偉首相の持論「自助、共助、公助」「まずは自分でやってみる」は、真面目に生きてきた人ほど追い詰められるでしょう。25日投開票の参院選再選挙での野党統一候補の勝利は、そういう新自由主義政治を過去のものにするための、大きな一歩でもあります。（ま）